

歴史教科書問題

エルエフ会資料

2005年6月24日

岡部 陽二

E-mail; y-okabe@hh.ij4u.or.jp URL; <http://www.okabe.org>

中学歴史教科書の出版社別占有率の推移

検定年度	2001年度	1983年度	1965年度
東京書籍	51.3%	31.3%	19.0%
大阪書籍	14.0%	14.8%	8.2%
教育出版	13.0%	11.6%	5.9%
帝国書院	10.9%	—	2.1%
日本書籍新社	5.9%	20.0%	14.1%
清水書院	2.5%	7.9%	6.4%
日本文教出版	2.3%	(中教出版) 14.2%	(中教出版他) 44.3%
扶桑社	0.05%	—	—
総発行部数	1,343千冊	1,685千冊	1,685千冊

歴史教科諸問題の変遷

- 1965～1997; 32年間にわたる家永裁判の継続(検定制度については合憲との最終判決ながら、戦争責任を積極的に認める記述を訂正させた国の検定行為の敗訴もあり、文部省が過度に防衛姿勢をとり、70年代には左傾化が進展)
- 1982検定; 文部省が「侵略」を「進出」に書き換えさせたとの報道、宮沢官房長官が謝罪したが、後に全くの誤報と判明
- 1986検定; 南京大虐殺の実否を疑問と記述した「新編日本史」に中韓から抗議、文部省が修正を指示(教科書問題が日・中韓間の外交問題に発展、自虐史観が定着)
- 1993～2005の検定; 1993年検定の高校教科書のほとんどに「従軍慰安婦」が登場、1996年検定のすべての中学教科書にも記述される。これも、事実誤認との見方が強まり、2005年検定ではすべての教科書から姿を消した(次ページの表)
- 1991と1995の検定; 扶桑社の「新しい歴史教科書」が大波紋

従軍慰安婦・強制連行記述の変遷

検定年度	1996年度	2001年度	2005年度
東京書籍	従軍慰安婦 強制連行	(慰安婦の記述なし) 強制的に連行	(慰安婦の記述なし) 連れてこられ
大阪書籍	慰安婦 強制連行	(慰安婦の記述なし) 強制的に連行	(慰安婦の記述なし) 連れてこられ
教育出版	慰安婦 強制連行	(慰安婦の記述なし) 強制連行	(慰安婦の記述なし) 連れてこられ
帝国書院	慰安婦 強制連行	慰安施設 強制的に連行	慰安施設 運び
日本書籍新社	慰安婦 強制連行	慰安婦 強制連行	(慰安婦の記述なし) 強制連行
清水書院	慰安婦 強制連行	慰安施設 強制的に連行	(慰安婦の記述なし) 強制的に連行
日本文教出版	慰安婦 強制連行	(慰安婦の記述なし) 強制的に連れてこられ	(慰安婦の記述なし) 連れてこられ
扶桑社	—	—	(慰安婦の記述なし) 連れてこられ

注; 1992年度までは慰安婦・強制連行ともに記述全くなし

歴史上の人物のとり上げ状況

(2005年度検定本)	総数	1ページ以上のコラム、本文で詳細に記述	
扶桑社	263	11	伊藤博文、織田信長、聖徳太子、昭和天皇、神武天皇、津田梅子、徳川家康、豊臣秀吉、二宮尊徳、源頼朝、紫式部
清水書院	203	3	織田信長、卑弥呼、ムハマンド
帝国書院	162	1	中江兆民
東京書籍	154	1	竹崎季長(元寇で先駆けをした鎌倉武士)
教育出版	170	4	浅川巧(韓国を愛し韓国に骨を埋めた日本人陶芸家)、阿弓流為(アテルイ、朝廷軍に対抗して破れた蝦夷の首領)、杉原千畝、長屋王(贅沢な生活で身を滅ぼした奈良時代の王族)
日本書籍新社	205	2	シャクシャイン(松前藩に抵抗して殺されたアイヌの首長)、与謝野晶子
日本文教出版	210	2	ペリー、ムハマンド
大阪書籍	187	0	

出所;三浦朱門編著;「全歴史教科書を徹底検証する」(小学館刊p15~17)

東京書籍ほか既存7歴史教科書の欠陥

- 歴史を通じて国民の自覚を育てる歴史観をまったく持たない
- あるとすれば、「侵略史観」「自虐史観」ともいうべき日清戦争以前からの中韓への悪業を強調する史観と農民は常に虐げられて来たといったマルクス主義的「階級闘争史観」の混在といえる
- どの教科書も差別反対、人権重視、反戦平和、地球市民といった思想に立脚、金太郎飴的な横並びで、差別化の発想は皆無
- 左がかった進歩的文化人が主体の教育委員への採択働きかけに有利な記述を出版社が営業戦略として競っている観あり
- 史実をあえて伏せたり、重要度の極めて低い出来事をことさら強調するなどバランス感覚を欠いているものが多い
- 文章が硬直的、説明が不十分で分かりにくい箇所が多見される

「新しい歴史教科書」の特色と意義

- 文章がよくこなれていて、大変読み易い(他の教科書に見られる無味乾燥な教科書臭がない)、読み物としても面白い
- 歴史上の事実について最新の見解を採用、極めて正確にポイントを押さえていて、理解し易い
- サブリミナル効果を狙って他国との対比や比喻を多用している
- 第二版から他社同様の大判(A4版)に変更、写真や図版も増やして、外見上は他社の教科書とあまり変わりがないように見せかけている
- 左翼偏向の旧来の教科書の誤りを指摘し、様々な見地に立った歴史観があることを認識させた刺激効果は大

「新しい歴史教科書」の皇国史観(1)

- 歴史を学ぶ目的; 過去の事実ではなく、解釈と見方が大切 (米国建国の英雄ワシントンも英国では反乱軍のリーダー)
- 神話と伝承の重視; 万世一系を強調 (天岩戸伝説や日本武尊と弟橘姫の物語を詳しく紹介)
- 聖徳太子に高い評価; 天皇中心の国家と対外不服従 (十七条の憲法、「日昇る国の天子」の国書を詳述)
- 「天皇」(古代だけで53)「国家」(古代だけで30)の頻出; 他の教科書の倍以上
- 明治維新による天皇親政の賛美; 欽定明治憲法の天皇統治規定を賞賛、「教育勅語」全文を掲載
- 日本の国旗と国家について2頁をさいてその由来などを解説

「新しい歴史教科書」の皇国史観(2)

- 日清・日露戦争; 戦況を詳述、国家への献身を賛美
- 韓国併合; ロシアの脅威から守るために必要であったと主張
- 日中戦争; 原因は中国の反日運動と指摘
- 太平洋戦争; 目的は自存自衛とアジアの独立支援と主張、さらに国民はよく戦ったと力説(特攻隊員の遺書を囲みで紹介)
- 戦争の終結; 「聖断下る」との項目で天皇の決断を高く評価
- 昭和天皇の生涯; コラム2頁に崇高な人間性を解説
- 新憲法; 大日本帝国憲法(旧憲法)を賛美し、新憲法はアメリカから押し付けられたものとして、第九条(戦争放棄)の廃止、天皇の地位向上を暗に主張
- 極東国際軍事裁判(東京裁判); 国際法上正当性に問題があったと指摘、インドのパール判事の無罪意見を紹介

「新しい歴史教科書」の問題点

- 「つくる会」の主導者・西尾幹二は、ドイツはすべての罪をナチスに押し付け、決して戦争を謝ってなどいない、ドイツ国民はナチスに騙された被害者であると主張している
- わが国の自虐史観を痛罵するこの皇国史観グループ「つくる会」の目的はこの思想を国民全体に広めることにあり、その手段として教科書を利用（歴史教科書は「国民の歴史」の要約版）
- このグループの支援層は厚く、資金力も豊富（教科書で利益を挙げる必要はない）
- 石原東京都知事がこの教科書採択を都下の教育委員会へ働きかけ、杉並区では教育委員を入れ替え、自民党の支持者は多い
- 英語版、中国語版、韓国語版、国内市販本も出版、中韓はこれが日本の歴史教科書の典型と見ている
- この教科書の出現が中韓を刺激し、靖国問題などとも絡んで外交問題の混乱に拍車